

第1回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：平成27年7月10日（金）午後2時00分～午後3時40分

開催場所：別海町役場 1階 101・102会議室

出席人数：10名（欠席2名）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 オリエンテーション
 - ・委員紹介
 - ・別海町自治基本条例及び協働基本指針について
 - ・別海町自治推進委員会設置規則について
 - ・第1期自治推進委員会の取り組み状況について
- 5 委員長及び副委員長選出
- 6 別海町自治推進委員会のスケジュール等について
- 7 そ の 他
- 8 閉 会

- 1 開 会 （司会 総合政策課長）
- 2 委嘱状交付 （町長から委員へ個人渡し）
- 3 町長挨拶

本日は皆様お忙しいところお集まりいただき、また、「別海町自治推進委員会」の委員をご快諾いただき、誠にありがとうございます。

私事ではございますが、先の選挙において、町民の皆様から力強いご支援を賜り、三期目となる町政運営を担わせていただくことになりました。

引き続き、町民の皆様との対話を大切に、「常に、町民のために」との思いで、取り組んで参ります。

さて、私は就任以来、町民の視点に立つことを心がけながら町政運営を進めてきました。地域課題の解決には、行政だけでなく町民の皆様と「情報を共有」し、「町民参加と協働」を大切にしまちづくりが重要であると考え、自治基本条例の制定や町民の自主的な活動を応援する補助金制度の充実など、様々な施策を進めてきました。

今後もこの考えが、広く町民の皆様浸透し、協働の原則であります「情報共有」と「町民参加」を基本とし、町民の皆様と行政がともに力を合わせ、それぞれの役割と責任を持って、課題を解決していくことが重要だと考えております。

本委員会は、“協働のまちづくり”の基本ルールとなる「別海町自治基本条例」が、目的どおりに運用されているか総合的に検討する重要な役割をもった組織でございます。委員の皆様は、日頃から町内会や地域における様々な活動をとおして「まちづくり」に携わっている方々と存じております。

どうかその見識、あるいは、それぞれの活動現場での経験を、本委員会において遺憾なく発揮

していただき、当町の協働のまちづくりを推進していくために、ご意見をいただきたいと考えております。

結びとなりますが、今後とも、町政推進にご尽力を賜りますようお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

4 オリエンテーション（事務局から委員紹介及び以下について説明）

- ・別海町自治基本条例について

事務局から配布資料を用いて自治基本条例の制定背景、制定までの取り組み、各条文の内容などを簡略説明。

- ・別海町協働基本指針について

事務局から配布資料を用いて協働基本指針の策定経緯、指針の内容について簡略説明。

自治基本条例の中で特に重要となる「情報共有」「町民参加」について、町民と行政の双方において更なる推進が図られるよう、別海町の目指す協働の姿を具現化するため、「別海町協働基本指針」を策定したことを確認。

- ・別海町自治推進委員会設置規則について

事務局から配布資料を用いて設置規則の説明。

- ・第1期自治推進委員会の取り組み状況について

事務局から配布資料を用いて、第1期となる平成25・26年度の取り組み状況について説明。

平成25年度は町長へ意見書の提出、平成26年度は提出された意見書に関する事項や、今後の別海町の協働のまちづくりの方策について、直接町長と対話する機会を設けたことなどを確認した。

5 委員長及び副委員長選出（立候補者及び推薦者なし。事務局一任）

6 別海町自治推進委員会のスケジュール等について

事務局から配布資料を用いて、平成27・28年度の委員会スケジュールの説明。

平成27年度は、自治基本条例運用状況報告のほか、視察研修を予定。平成28年度については、任期2年間の“まとめ”の年として位置づけ、町民参加の状況等についての検証を中心として、最後に意見書にまとめる予定であることを確認した。

委員

前回の視察研修はどこを予定していたのか、改めて確認したい。

事務局

釧路の「わっと」という市民活動センターです。10周年記念に係る会議の中で、色々な場所の協働のまちづくり報告会などが予定されており、半数以上の出席で参加するとしていましたが、開催が日曜日ということもあり、半数に満たなかったため中止となったところです。

委員

「わっと」は初めから知っているが、あのレベルまで行ったということに非常に興味がある。協働のまちづくりの原点だと思う。このような先進的にやっているところの意見も聞くと面白い

のではと思っている。

事務局

今いただいた意見も踏まえ、またこの後皆さんに検討していただきたいと思いますが、昨年の道民カレッジで取組みを見に行く予定だった霧多布湿原トラストさんも候補として考えています。

距離的には釧路根室管内と制限されてしまいますが、委員の皆さんの興味のある場所がありましたら、第2回の委員会までに伝えていただければ、資料等用意した上で皆さんと検討したいと思っています。

委員

色々な町でこのような取組みをやってはいるが、波がある。他所からコーディネーターを呼んでやっているときはグッと伸びるが、そのコーディネーターや中心になる人が居なくなると下がってしまい、続かない。しかし、別海町は自治基本条例も策定し、地道ではあるが続いている。そういうところは少ないので、そのような意味では釧路の「わっと」の在りかたは興味がある。

委員

今、私たちは外に向けて勉強することも大事であり、年4回の委員会のなかで、外に出て行くことも大事だと思うが、町民が協働という部分に対し、どのような意識を持って過ごされているのかというのを知ること、委員会として大事だと思っている。住民を巻き込んだ、委員会と住民との対話というのにも必要ではないか。

委員長

自治基本条例ができて、それらを町民がどの程度考えているのか、パブリックコメントに喰らいついてきているのか、年間を通してどれだけの町民の意見や考えが行政に吸い上げられ、反映されているのかということを含め、我々だけでなく町民の意識を高めるための施策についても考えたらどうかという意見である。

例えば、意見書の中に盛り込むということもあるし、それ以前にこの任期2年の間で何かをやるということも考えられる、という参考意見として捉えていただきたいと思う。

委員

この委員会は2年間ほとんど同じメンバーだったが、意思疎通というものは中々お互いに浸透していないと感じる。ましてや、我々町民が対行政ということになると、役場へ行った際その対応に面食らってしまうことがある。職員の方も、行ったときにはもう少し気軽にお互い声をかけられるような雰囲気をつくってほしい。往々にして、どこの課もそういう部分があるのかなと感じている。

事務局

今までの委員会でもそのようなお話はいただいており、この場で話されたことが庁内で拡がりを見せないということは、やはり今のようなご意見に繋がります。そういう意識をきちんと組織内でも共有しましょうということで庁内協働推進委員会というのを設置しており、昨年も自治推進委員の皆さんからの意見を、庁内協働推進委員会に出して話をしています。

今は行政も非常に細かい対応を求められることが多く、どこの部署も中々余裕がない。余裕がないことが、おっしゃったような対応として出てしまうという部分があるなかで、やはりそういう意識が庁舎内の中にあり、我々所管課のほうから職員に向けて情報を発信し、いつでも職員がそれを触れられるようなものをつくりながら、顔をつき合わせての委員会も行い、意識の共有を

図っていくということ積み上げていくしかないのかなというような話はしているところです。

委員長

先日の会合では、他町からきた委員さんが非常に好印象だったと、そういう評価をしていた。なので、必ずしもとんでもない悪い状態ではないと思うが、こればかりは悪くなければ良いということではないので、もっと明るい対応が広がってくればそれに越したことはない。

事務局

我々も他の自治体へ行き、カウンター越しに用件を伝えようとした際、やはり同じ業種であっても反応が冷めていたりすると、何とかならないのかなと思いますから、今おっしゃられたことは当然だと思います。例えば何か探しているようだったら誘導するだとか、そういう気持ちの持ち方ひとつで変わるというのはあるのかなと。

委員

誰に声をかけていいのか分からない、今日は担当の人が席に居なかったがどうすれば良いか、などを聞けるような受付係があってもいいと思う。今も農政課に行ってきたが、会いたい人が居なかった。皆真剣に仕事をしているが、誰に声をかけようかと考えてしまうので、そういう人が各課に1人は必要かなと思った。

委員長

職員による庁内協働推進委員は何名くらいで構成されているのか。

事務局

各課単位で1名程度をお願いしており、全体で20数名となっています。

委員長

職員でそのような委員会をつくっていると聞き、ホッとした。役場の人数というのは非常に多いわけで、その中で自分たちの仕事をもっと前向きに取り組もうというような話し合いができているとすれば、これは良いと思う。公務員倫理法で縛られているから、これを守れば良いというだけでは、町民としては面白くない。

委員

役場に行って会いたい人に会えなかったが、皆一生懸命仕事をしているということであっても、その課に用事があるて来ているわけだから、仕事をしていても気配を察知して職員側から気軽に声をかけてもらえるような雰囲気づくりは大事だと思う。

7 その他

○自治推進委員名簿の町ホームページ掲載について

→了承

○視察研修候補について、何かあればご意見等お寄せいただきたい。時期としては、9月末から10月中旬の間を予定。

委員

町長の招集する町内会長会議において、町内会長が言いたいことを町にぶつける陳情会みたいになってしまっている。地域の問題点を一年に一度の機会にぶつけようというのは分かるが、個別の回答書を紙で貰っているわけだから、あまりそのことに時間をかけないで、大きい地域のテーマについて皆でざっくばらんに話し合うようなものになればと思う。

事務局

町内会長会議については、元々町として町内会に色々お願いをしている事務関係の要望や改善

点などがあれば話し合しましょう、というところからスタートしています。もし、当日急に意見をいただいておりますが、お答えできないことがあっては困るということもあり、事前に希望や意見を聞き取る形にしたなら、道路整備の話など町内会の問題とは少し異なる要望が挙がってくるようになったと。それらも町に対する要望ではありますが、地域からの陳情の機会にシフトできるようなことも町内会長会議の中に挙がり、むしろそれがメインになってしまってきた。なので、純粋な町内会長会議という趣旨に戻ったほうが建設的な意見交換もできて良いのではという話ですよね。

委員長

そういうのは、年に一回陳情書を担当部署に出したりしないのか。

事務局

出します。その陳情や要望の関係は総合政策課が窓口になっており、必ず地域の方から申込みがあります。それ以外の町内会の運営に関する事で何か困りごとや確認したいことがあれば、当日話し合いをするので何か意見ありましたらと話を振るのですが、挙がってくるものが陳情のような内容になってきました。ただ、この意見は趣旨と違うから受けませんと返すわけにもいかなないので拾っていったら、それが段々メインになってきたという形になっています。

委員長

主催は総務課ということだが、うまく仕切れないものか。

事務局

最初に質問として取りまとめているので、それについて当日回答するというのが、総務課の仕切りとしてあります。事前に取りまとめたものについては答えを用意していますが、それに付随して質問者や他の参加者から質問が出た際、最初の質問は答えて次の質問は趣旨から外れているから回答できない、という話にはならないので答えているのだと思います。町側もそれを想定して対応者を増やし、町内会もそれを見て意見や要望をぶつける場所なのか、という悪循環が生まれているような気がします。ほとんどは、地域から挙がってくる陳情要請の中に含まれていることが多いです。総務課もおそらく、地域の陳情ではない町内会の活動に関するものを挙げてくださいと投げかけているとは思いますが、地域にとっては中々境界がつけられない問題というのもあります。

委員

今言われたような陳情に対する個別の回答を逐一やっていたのではかなりの時間を要するので、町全体の懇談という観点からちょっと外れている気がする。要請書を各部署に出し、町から回答文書もらったうえで、その内容に納得がいかなければ、それは個別に相談に行けばいいと思う。

事務局

町のほうも事前に取りまとめるので、事前にいただいた質問については当日文書を以って回答させてもらい、それ以上のことをしなければいいのかなと。地域の陳情に繋がるようなことは、総合政策課を通して行う陳情・要望の中で町長と個別に話し合ってくださいということで、この場では頂いた意見に関しては文書を以って回答させていただき、本来の会議に沿った議論をさせていただきたいというようなテーマをつくって進めていけばいいのかなと思います。

委員

情報の共有ということであれば、例えば町が新規の事業や住民に理解してほしいテーマがあれば、そのことについて町長なり担当部長なりが話されて、それに対して参加者の意見をもらったほうが楽しいのではと思う。

委員長

楽しくないといえば、行政のまちづくり懇談会。ひな壇に町長をはじめたくさん人が並んでいるし、何回か参加したけど不愉快なことがかなりあった。

事務局

行政が質問に対し回答ができなければ、質問者に対して申し訳ないという保険のかけすぎで、地区によっては参加者よりも行政側の人間が多いということもあります。お互いにルールを持って、どういう方向に行けば解決に向かっていくかというのを、行政も住民もお互いに意見を言い合うというようなものが定着すればいいのかなと思います。

委員長

ここまでの内容は、我々自治推進委員会で取り扱う内容となるだろうか。

委員

これが本当のあり方だと思う。町長と話そうやミルクミーティングが基本なわけだから、これは必要だと思う。

事務局

事務局の提案もそうですが、決まったものを進行するというものはスケジュールを見てもあまり無いので、むしろこのように普段気になっていることを出してもらおうほうが、意見書のまとめなどにも繋がると思います。

閉 会